

インターバンクの声（2015 年 4 月 23 日）

ニューヨーク市場の昼前に早くも 120 円に迫っていたドル円だったが、そこから実際に 120 円を超えるには難儀している。今朝配信された各種の市場レポートには、昨晚のドル買いが予想を上回った 3 月の米中古住宅販売が理由だったとしている内容が目立つが、ドルが買われ始めたのはロンドン市場が始まって間もなくの頃だ。中古住宅販売が発表された頃、ドル円は既に 119 円 70 銭前後まで上昇していた。さらに、昨晚のドルは英ポンドや豪ドルに対して反落するなど、とにかく厄介な相場展開となっている。ギリシャとユーロ圏財務相の会合では、同国銀行向けの緊急融資の増額が認められたとの情報もあるが、その反対側では同国銀行からの預金流出が止まらなくなっているらしい。このギリシャ問題も、こんな事を続けているわけにも行かず、どこかで決着を見る時が来るのかも知れない。昨晚は予想を上回った米経済指標だったが、米経済も全体的には陰りが見え始めたと判断するアナリストも増えており、市場が少し前のような強気なドル買い姿勢も薄れている。短期的な調整前の最後の 120 円超えになるのかしっかり見守りたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。